

第5回 資源調査分科会の主な論議

日 時：平成14年9月25日（水）11:00～12:00

場 所：霞山会館「さくらの間」

今後の審議事項についての主な議論

- ・ さまざまな製品についてCO₂やライフ・サイクル・エネルギー量を計算するように、さまざまな製品に水がどれだけ投入されていて、**どういう生活をしたら水を節約できるかを検討するのがいいのではないか。**
- ・ **時間資源**を取り上げて、どういうことが時間の資源を食いつぶしているのか。どうしたら重要な人の時間をうまく使えるのかを検討するのも面白いのではないか。
- ・ **（製品の環境に対する影響を評価する）ライフ・サイクル・アセスメントの方法論を議論してはどうか。**
- ・ ライフ・サイクル・アセスメントなどは経済産業省がかなりの予算を投入し、組織として対応しているから、資源調査分科会でそれと同じテーマを扱っても太刀打ちできない。むしろ、各省がそれぞれ取り組んでいるが、**一般の人の意識を高めることや自然科学と人文・社会科学との境界線にあるところなどが抜けており、国民には響いていないことを、一般に広めるにはどうしたらいいかなど**といった問題を扱うのもいいのではないか。
- ・ 資源調査分科会は、interdisciplinary（学際的）なものを取り扱うべき。
- ・ **文化的な資源、環境的な資源**といったものの評価を行って、国民としてどれくらいの労力をそれに割くべきかというバランスを考えてみてはどうか。
- ・ 我が国には歴史的建造物や文化遺産などといった**文化資源**もあり、経済的な価値ばかりではなく、そういった精神的な価値をもっと重視すべき。文化を高めるための糧のようなもの、精神的な支えとなるような財を取り上げるべき。
- ・ 同じ科学技術・学術審議会の他の分科会との連携が必要。報告書を世の中の人に読んでもらうとともに、次のものにつながるように、関係するそれぞれの部局に意識をもって対応してもらうことが重要。
- ・ 「水」の次は、「光」を取り上げてみてはどうか。光化学反応で公害物質が形成されたり、紫外線の悪影響が問題となったりしていることから、「光」について科学技術的な観点から取り上げてみてはどうか。

第6回 資源調査分科会の主な論議

日 時：平成14年12月19日（木）16:00～17:00

場 所：霞山会館「まつの間」

今後の審議事項についての主な議論

- ・ これまでの日本は、フローの中で利益を上げて稼ぐということだけだったが、**日本における資産形成**ということ、**文化財を含めて、資源論として議論**するのはどうか。
- ・ **文化資源**を21世紀的な視点でもう一度洗い直してみることは非常に意味がある。
- ・ 「**土地**」を取り上げてみてはどうか。
- ・ 文化遺産の中で生活しながら、その中で文化遺産も生きているということが大切。
- ・ 日本には、守れる文化を本来守っているが、それがだんだん崩れているのではないか。観光に徹している地域では、我慢してでも商売の種として生き残っているが、場合によっては科学技術によって残していきたいというものがあるのではないか。現状をじっくり見て、一体日本はどうあるべきかというような議論をする報告書があるといい。